

2025年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2024 を選出：社債はソニーG、IPO は東京メトロ

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2024”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2024年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

2024年度は、日銀の利上げ観測や米国の政策によって市場が大きく変動するなかでファイナンスが行われた。債券では、こうした環境での運営を短縮化する事例を示したソニーグループが受賞し、定例発行でその度に適正水準を追求した日本政策投資銀行、需給の緩みに対応してワイド化を断行した神奈川県と愛知県、市場の変化に即した10年定時償還債を供給した長崎県、毎月安定的にRMBSを発行した住宅金融支援機構が受賞。M&Aに要した資金を、国内でのシニア・劣後債に加えドル債でリファイナンスした積水ハウスも高評価だった。

海外ネームでは、韓国の発行体による円債の継続発行を導いた韓国輸出入銀行が受賞。外債では日本の生保銘柄で2011年以降の最低スプレッドを更新した第一生命保険のドル債と、大型発行を実現したJR東日本の複数通貨建て債が、シニア債と永久劣後債によって既発債の償還懸念を後退させた楽天グループが受賞している。

POでは、自動車セクターの株式持ち合い解消の先駆けとなったホンダ、IPOは約3500億円の大型案件だった東京地下鉄をBEST DEALに選出した。投資法人では訪日客の盛り上がりの時機を捉えて2年連続の大型POを実現したインヴィンシブル投資法人が、CBでは株価が高値圏にあるなかでローンチして成功を収めたSBIホールディングスが受賞した。

以下が授賞リスト(〈〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2024

第42回	ソニーグループ債	2月28日	5年	600億円
第43回	ソニーグループ債	2月28日	10年	500億円
〈野村/SMBC 日興/大和/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/みずほ〉				

サウンディングやヒアリングを行わず、3 日間のマーケティングで条件決定した。社債市場の長年の課題である運営期間の短期化を実現した。発行体のクレジットの高さや、ノンディール IR による投資家との継続的な会話が奏功し、ボラタイルな環境のなかで総額 1100 億円の案件に仕上げ、2100 億円超の需要を獲得した。

BEST ISSUER OF 2024

積水ハウス

7 月に総額 2000 億円の劣後債、2 月に同 1400 億円の 4 本立てシニア債を供給。10 月には自身初のドル債も発行し、10 億ドルを調達した。いずれも、米国の住宅メーカーである MDC ホールディングスの買収資金のリファイナンスであり、多様な手段による調達で投資家層の拡大を実現し、存在感を示した。

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2024

該当なし

BEST ISSUER OF 2024

日本政策投資銀行

財投機関債で最大の総額 4000 億円を供給。毎四半期初に 3 年・5 年・10 年債を起債し、財投機関債の適正水準を追求した 8 月には本邦金融機関として初めてトランジションボンドを発行し、トランジションファイナンス市場の活性化に貢献した。

地方債等部門

BEST DEALS OF 2024

第 265 回 神奈川県債	9 月 4 日	10 年	100 億円
---------------	---------	------	--------

〈野村/SMBC 日興/東海東京/ゴールドマン・サックス〉

令和 6 年度第 8 回 愛知県債	9 月 4 日	10 年	250 億円
-------------------	---------	------	--------

〈野村/みずほ/SMBC 日興〉

前月の 8 月に金利が大きく変動し、10 年物地方債への目線が散逸した後に 9 月の新発債における第 1 陣を務め、国債カーブ+6bp から+10bp へと、4bp もの上方修正を行った。これによって需給が改善し、後続案件も安定的に消化された。9 月だけでなく、年度後半まで続く好調な地合いを築いた。+6~11bp と、地方債としては広めのレンジを敷いて探り、都銀や中央公的を取り込む水準として+10bp に着地している。

特別賞

令和 6 年度第 4 回 長崎県定時償還債 10 月 9 日 10 年 130 億円
〈SMBC 日興/野村/みずほ〉

およそ 3 年ぶりに最終 10 年物の市場公募定時償還債を供給し、この商品の市場を再稼働させた。金利の上昇によって長期ゾーンに対するリスク許容度が低下し、20 年物の発行が難しくなるなかで選択し、投資家の年限短期化ニーズに応えた。利上げ観測がくすぶり続けるなか、5 年満期一括償還債対比の厚いスプレッドと継続的に元本が償還するスキームが見直された。

BEST ISSUER OF 2024

該当なし

非居住者円債部門

BEST DEAL OF 2024

該当なし

BEST ISSUER OF 2024

韓国輸出入銀行

2018 年 6 月の前回(1.5 年・3 年)から年限を延ばした 3 年・5 年・7 年債で 2024 年 11 月に登場し、5 年債はグリーンボンドとして起債して総額 650 億円のディールに仕上げた。その後に尹錫悦大統領が拘束されるという事態となったものの、日本国内での利上げ動向でボラティリティが高まり、短期物へのニーズが強まるなか、KEXIM のこの案件が 2025 年 1 月の大韓航空 3 年債、2 月の KT2 年・3 年債という韓国物サムライ債の流れを作った。調達サイドとしてすそ野を拡大させただけでなく、大韓航空債では保証体としてディールに貢献している。

証券化部門

BEST DEAL OF 2024

該当なし

BEST ISSUER OF 2024

住宅金融支援機構 (RMBS)

日本の証券化市場を牽引する最大の発行体。毎月の発行によって 2024 年度は合計 5687 億円の RMBS を供給した。安定的な消化を重視し、市場実勢に即した運営に定評がある。日銀会合などのイベントを挟んだスケジュールの起債でも円滑に消化した。年度初から 8 月まではスプレッドが縮小し、最終月の 3 月は金利変動の大きさなどを考慮して 3bp の上方修正を行っている。

外債部門

BEST DEAL OF 2024

第一生命保険劣後ドル債 1 月 7 日 永久 (NC10) 20 億ドル

〈ゴールドマン・サックス/みずほ/JP モルガン/BofA/モルガン・スタンレー/野村〉

2011 年以降の本邦生保銘柄で最低スプレッドである米国債+151.5bp を実現。タイトなプライスを達成しただけでなく、投資家層を拡大させた。20 億ドルという大型案件でイニシャルプライスソーツ (IPT) から 42.5bp タイトな 6.200% に仕上げ、369 件の投資家から 80 億ドル超のオーダーを獲得した。強固な事業基盤や財務基盤を背景とした高いクレジットと、2016 年 7 月以来 8 年半ぶりのドル債という希少性を生かしたうえで、高クーポン物へのニーズを取り込んだ。

特別賞

JR 東日本ユーロ債 8 月 28 日 12 年 7 億ユーロ

JR 東日本ポンド債 8 月 28 日 30 年 6 億ポンド

〈BNP パリバ/バークレイズ/JP モルガン/みずほ〉

12 年ユーロ建てグリーンボンド (GB) と 30 年ポンド債と 2 つの通貨で登場し、邦貨換算ベースで総額 2273 億円を調達した。ベース金利の変動で日本国内での超長期債の大型発行が難しかったなか、利下げ局面にあった欧州では超長期物へのニーズが強く、これを捉えた。12 年ユーロ建て債は、EU タクソノミーに準じた GB であることが ESG 投資家から好感され、30 年ポンド債は、2007 年 4 月の 26 年債 (当時 Aa2: ムーディーズ/AA-: S&P、2.5 億ポンド、5.25%、英国債+63.5bp、ブックランナー: メリル) 以来 17 年 4 ヶ月ぶりとなる同通貨での超長期債という点で注目され、いずれも発行額の 2 倍超のオーダーを取り込んだ。

BEST ISSUER OF 2024

楽天グループ

4 月に 5 年シニア債を 20 億ドル、12 月に永久 NC5 劣後債を 5 億 5000 万ドル、2 本で合計 25 億 5000 万ドルを調達し、2024~2025 年の外債でのリファイナンス懸念を後退させるとともに、クレジットの改善を印象付けた。シニア債は、アジアのハイイールドネームによるドル債で、1 トランシェで過去最大の発行額を実現。モバイル事業の収益改善などを背景としたセカンダリーでのタイトニングを追い風に、劣後債ではシニア債を大幅に下回るクーポンとスプレッドを達成した。

新規公開株式部門

BEST DEAL OF 2024

東京地下鉄 10月23日上場 売出：2億9050万株 3486億円
〈野村/みずほ/ゴールドマン・サックス〉

オファリング総額が約 3500 億円の大型案件。配当利回りが好感され、鉄道の延伸や不動産の活用といった成長性も高く評価された。地下鉄車内での告知や個人投資家向けの会社説明会を行ったことで、内外の機関投資家だけではなく、リテール需要も膨らんだ。上場後の株価も好調に推移した。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2024

ホンダ 7月4日 売出：2億5987万9700株 4325億6976万0650円
〈みずほ/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/モルガン・スタンレーMUFG/SMBC 日興〉

大手損害保険会社の全株売却を含む 10 社の政策保有株主による売り出しで、当年度最大規模の株式案件かつ、国内自動車メーカーとして過去最大。このセクターの持ち合い解消案件の先駆けとなった。前期に過去最高益を出したあとのタイミングで、成長性や株主還元策も好感された。

投資法人投資口 発行・売出部門

BEST DEAL OF 2024

インヴィンシブル投資法人 7月18日 公募：89万5000口 569億2379万円
〈SMBC 日興/みずほ/モルガン・スタンレー〉

NAV 倍率が 1 倍を割るリートが多いなか、大規模なグローバル PO を 2 年連続で実施。円安進行による訪日客の取り込みや、建築費高騰による新築ホテルの供給減に伴う既存施設の優位性の高まり、人手不足が課題の業界での人材確保策など説得力のあるストーリーを訴求することで投資家の理解を得た。

BEST ISSUER OF 2024

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2024

SBI ホールディングス ユーロ円 CB 7月10日 7年 1000億円
〈大和/SMBC 日興/メルリリンチ/SBI/野村〉

2000 年以降 6 回目で 1000 億円を発行した。発行後 5 年のプット条項を初めて付与すると同時に、転換を促進可能なソフトコール条項を付与し、株価が高値圏にあるタイミングでローンチ。実績に基づく知名度の高さを背景に 70 件超が参加した。発行決議による株価下落の影響は 2.5%にとどまった。

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債等、地方債等、非居住者円債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、投資法人投資口、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地:東京都港区六本木 1 丁目 8-7 MFPR 六本木麻布台ビル

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <https://c-eye.ne.jp>(契約者サイト) / <https://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6824-7531